

はじめに 1

私たちの暮らしと知的財産

時代を超えていくもの 3
 知的財産権のいろいろ 5
 特許に守られた先端技術 7
 時代の流れとデザイン 9
 ブランドに守られた信用 11

技術開発と特許

革新的な技術の創造に向けて 13
 新しい技術の特許に 15
 未来に向けた技術開発 17
 日本の十大発明家 19
 学生児童の発明工夫 21
 世界の特許出願の状況を見る 23

特許ゲット物語

ゼンマイ発電機の特許ゲットだぜ!! 25

コラム

ファイナルファンタジー 46
 わが国における失敗例 61
 発明の展開例(携帯電話機) 70
 プルトップ缶 74
 モンカフェ 80
 日本の特許制度と福沢諭吉 87
 専売特許条例の制定と発明の日 87
 ソフトウェア特許ってどのような特許? 90
 主要外国の特許制度 166
 イギリスにおける特許と産業革命 178
 パテントファミリー 179

第1章

発明と特許

特許制度とは? 41
 特許制度ってどんなもの 41
 発明って何だろう 43
 特許法上の「発明」とは 43
 自然法則の利用 44
 技術的思想 45
 創作 45
 高度 46
 特許になる発明とは? 47
 産業として実施できるか 48
 新しいかどうか 49
 容易に考え出すことができないか 53
 先に出願されていないかどうか 54
 公序良俗に反する発明でないか 56
 明細書の記載は規定どおりか 57
 特許になる発明を見つけよう 60
 アイデアから発明へ 60
 発明を意識して発掘しよう 61
 ほら、そこにも発明があるよ 63
 発明を発掘するポイントは? 64
 発明をしっかりと把握・展開しよう 65
 発明のポイントを深く掘り下げ、
 広い概念で発明を把握しよう 66
 アイデアを広げていこう 68
 他にもあるぞこんな例 69
 特許を受けようとする発明を検討しよう 71
 発明の表現形式に注意しよう 71
 発明の範囲を広くしよう 73
 発明の本質部分を押さえよう 75
 従来技術との関連性を検討しよう 77
 特許を受けようとする発明は新しいかな? 78
 特許を受けようとする発明は
 容易に考え出せないものかな? 78
 公知技術の調査からアイデアを連想しよう 80
 特許を受けることができる者 81
 特許を出願するための資格 81
 従業員の発明 83
 職務発明とは 83
 弁理士とは? 85
 弁理士にはどのようなときに
 依頼すればよいのでしょうか? 85

第2章

特許情報の調査

特許情報は何のために	89
特許情報を知ること	
発明を確かなものにする	89
特許情報ってどんなもの	91
最先端技術の開発指標	91
豊富な技術内容と詳細な開示	91
権利情報としての側面	91
世界共通の記載形式	92
検索しやすい情報体系	92
特許調査でわかること	93
特許情報の調査でわかること	93
こんなにある特許情報の種類	95
公開特許公報	95
特許公報	96
公開技報	96
公表特許公報／公表実用新案公報	97
登録実用新案公報／公開実用新案公報	97
意匠公報／商標公報／公開実用新案全文明細書	97
公開特許英文抄録／公開特許出願抄録	97
特許情報にはどんなことが	
書かれているの(特許公報の見方)	98
公開特許公報の実例	
(フロントページとその続き)	98
公開特許公報の実例(明細書部分と図面)	99
特許公報の実例(フロントページとその続き)	101
特許情報にアクセスしよう	102
特許庁ホームページ	103
特許電子図書館	104
その他の特許情報提供機関	106
特許分類を活用しよう	107
国際特許分類	107
国際特許分類の表記方法	107
日本固有の分類	109
Fターム	111
特許電子図書館で特許情報を見てみよう	112
使用するDBの選択	112
対象とする公報の種類選択	112
検索式の作成(キーワード)	113
検索式の入力	113
検索結果の表示	115
公報の表示	115
特許マップを見てみよう	116
特許マップの代表例	117
既存の Patent マップの活用	119

第3章

出願書類の書き方

特許出願の手続き	121
特許出願書類	121
特許出願書類の提出の仕方	122
パソコンで出願する場合	122
書面で出願する場合	125
出願の手続き	126
出願書類を揃えてみよう	127
願書	127
願書の事例その1	129
願書の事例その2	130
特許請求の範囲と明細書	131
特許請求の範囲の事例その1	134
明細書の事例その1の第1頁	134
明細書の事例その1の第2頁	135
明細書の事例その2の第1頁	136
明細書の事例その2の第2頁	
(図表を記載する場合)	136
図面	137
図面事例その1(紙バック切り開き器の図面)	138
要約書	139

第4章

出願から登録まで

出願から特許取得までの流れ	141
特許出願手続きの流れ	141
方式審査	142
補正命令	142
弁明書の提出	142
明細書や図面の補正	143
補正の制限について	143
手続補正書の書き方	144
出願公開と補償金請求	145
出願公開制度の導入	145
公開特許公報	145
補償金請求権	146
早期出願公開制度の導入	146
出願審査請求	147
出願審査請求の必要性	147
出願審査請求書の書き方	148
早期審査・優先審査	149

実体審査	150
拒絶理由の通知	151
意見書の提出	152
意見書の書き方	152
手続の補正	153
審査官との面接	154
最終処分	155
特許査定	155
拒絶査定	155
特許権の成立	157
特許料の納付	157
特許異議の申立てと無効審判	158
特許権の効力	159
特許権の利用形態	160

第5章

外国での特許取得

外国で特許を取るためには	163
どうして外国で特許をとるのでしょうか	163
外国で特許を取得するためのいろいろな制度	164
パリ条約の利用	167
パリ条約の特徴	167
内国民待遇	168
優先権制度	170
特許独立の原則	172
特許協力条約(PCT)に基づく国際出願制度	173
PCTに基づく国際出願	174
国際調査	176
国際予備審査	177
国内段階への移行	178
・米国の特許公報の実例	180
・ドイツの公開特許公報の実例	181

第6章

特許以外の産業財産権制度

実用新案制度	183
実用新案法の保護対象	183
無審査制度	184
実用新案制度と特許制度の違い	184
実用新案登録出願の流れ	185
出願	186
方式審査	186
補正	186
登録	186
実用新案技術評価書の請求	187
技術評価書の事例	188
実用新案登録出願時の注意点	189
出願書類を書く前のチェックポイント	189
出願書類を書いた後のチェックポイント	189
意匠登録制度	190
意匠法の保護対象	190
意匠登録を受けられる意匠	190
意匠制度と特許制度の違い	191
意匠登録出願の流れ	192
商標登録制度	193
商標制度の意義	193
商標の存続期間	193
商標法の保護対象	194
商標出願の流れ	195

資料編

国際特許分類表	197
特許用語解説	199
特許庁問い合わせ先	201
各種連絡先	201
産業財産権関係料金	202
特許料等の減免措置について	203
産業財産権の出願動向など	206
産業財産権テキストのご案内	207

